

「安心できる環境と関係性で人は変わる」～表現・コミュニケーション学科での生徒の学びと成長～



表コミ入学時  
不登校経験者の割合

約**70%**

社会に送り  
出した卒業生

**516人**

コミュニケーション  
・SSTの授業

時間割の  
**40%**

生徒約100名  
に対して

**専門家  
複数名常駐**

- スクールカウンセラー
- 特別支援教育士SV
- スクールソーシャルワーカー
- 養護教諭
- アドバイザー

中学3年時不登校  
だった生徒の歩み

表コミでの  
通学率  
**95%**  
(2025年度)

卒業時の  
進路決定率

**93.2%**

進学79%  
就職・就労移行等14.2%  
(2020-2024)  
5年間平均

「入学時」と「卒業前」の生徒の変化 (生徒アンケートより抜粋)

**表コミで伸びる4つの力**

- 自己理解・自己受容・自己肯定感
- コミュニケーション
- ライフスキル
- 学力・進路

(2024年度)

57.9%

**91.7%**

自分の気持ちを先生に  
伝えることができましたか。

47.4%

**88.9%**

自分の気持ちをクラスメイトに  
伝えることができましたか。

71.0%

**87.2%**

先生やクラスメイトが自分を  
認めてくれたことがありましたか。

44.7%

**68.2%**

上手くいかないことが起こった際に  
適切に対応できましたか。

54.6%

**74.3%**

良くないと感じることに  
ついて、アドバイスを合することが  
できますか。

57.9%

**86.1%**

困った時に、人に相談できましたか。

57.9%

**86.2%**

先生やクラスメイトにあいさつ  
(「おはよう」など)が自分から  
言えますか。

42.1%

**76.9%**

一人にいる人や気持ちが落ち込んで  
いるような人にあたたかい言葉をか  
けることができますか。

大阪YMCA国際専門学校表現・コミュニケーション学科(表コミ)は、「多様な不登校生」を対象に、一人ひとりのペースで学び・人と関わり・生きる喜びを育む高等専修学校です。



# 表コミ卒業生 インタビュー

相愛大学  
人文学部人文学科

宮本玲奈  
(表コミ18期)

立命館大学  
文学部人文学科

井戸田渉  
(表コミ16期)

大谷大学  
文学部文学科

英保志緒  
(表コミ18期)

太成学院大学  
人間学部  
心理カウンセリング学科

丸山侑士  
(表コミ15期)

## 表コミ生活の中で印象的だったことは？

**井戸田**：初めて来た時のオリエンテーションで、ずっと仮面ライダーの変身ポーズをやっている子がいたんです(笑)。普通なら注意されると思うんですけど、先生方は結構自由にさせているというか、見守っている感じで、「ここは自由で、自分にも合いうような学校だな」と思いました。

**英保**：3年生になって、自分もそうやけど、やっぱりみんなすごく：なんだろう、どんな柔軟かか成長している感じがして、めっちゃめっちゃ成長している感じがして、それが自分にとっても刺激になりました。人の合う合わないはあっても、「みんな協力してやっていこう」という空気ができてたなと思います。

**宮本**：阿南(キャンブ)の時に、「俺は日焼けするのが嫌だからみんなの船には絶対に乗らない！」って言い出して、先生のモーターボートからずっと日傘さして手を振ってた人がいたんですよ(笑)。でもその子も3年生になったらみんなの輪の中に自然に入って、面白い人として認められて。あんなにツンケンしてトゲトゲしている人が周りにいたら、普通は「関わるのやめておこう」ってなるんですけど、本人自身もだんだん角が取れて丸みが生まれて、それを「面白い」と評価する人が現れて。結局みんなの輪の中で楽しんで、のびのびやっつけていけるようになった、そういう変化をすごく感じましたね。

## 自分自身が「ここなら安心して過ごせるな」って思ったタイミングは？

**宮本**：そつですね…。私は自分の気持ちや感情の機微を言葉にしたり、感覚として掴んだりするのは得意な方だと思うんですけど、それをいざ表に出して相手に伝えるとなると、すごく抵抗がありました。そんな時、ちょうど1年生の最初に、「今

の気持ちはどうですか？」という質問に丸をつけるアンケートが…  
**司会**：あったね！「こここのスケール」だ(笑)。

**宮本**：それです！「こここのスケール」で書いたことをきっかけに先生に呼ばれて、色々「これってどんな感じ？」って聞いてもらえたことがあって、「自分から言わないと何も動かない」ことが多い中で、「ここでは相手からも来てくれるんだ」って気持ち。大人の人が話を聞いてくれる、話してもいいんだという状況を作ってくれたことがすごく大きくて。「あ、自分も気持ちを言ってもいいんだな」と思えたきっかけのひとつでしたね。

**英保**：うーん、なんだろう。伝え方も色々あるんだっていうことを学べたこと。自分から相手に話しかけることができない時に、ノートに書いてその先生に渡したりとか自分の気持ちを必ずしも喋って伝えなきゃいけないわけじゃなくて、書いて伝える方法もある。なんとかして伝えないと気持ちは伝わらないんだな、ってことは、すごく表コミで学んだかなって思います。

**井戸田**：変わったのはやっぱり宿泊でのカウンスルファイヤー(夜の語り合い)だったと思います。僕も自分の本心はもともと全然語らないタイプで、2年のカウンスルファイヤーの時に初めて言ってみて、なんか感極まって…泣いてしまっただけ。その時によっぱスッキリしたというか、自分の気持ちってやっぱり言っていた方がいいな、って感じてから、自分の思ったことはちゃんと言うようになりましたね。自分も色々言いたいこと言って、他の人の言いたかったことも聴けて、で、「あ、そう思ったんだ」とか「あああそういうことだったんだ」って、団結も強くなりましたね、あそこ。

## 卒業した今、表コミで身につけたことが活かしているな、と思うことは？

**英保**：今までの学校だったら「みんな一緒に、同じことやっていく」みたいなのが多

かったけど、表コミはそれぞれのペースに合わせていろんなことをやってくれる。「それぞれのペースで進んでいいんだよ」ってことを、入学から卒業式の時まで先生たちに言われ続けて。それで、確実に「人と比べる」っていうことが減ったなって感じます。なんかもう本当に周りが気になる人だったんですよ、入学した時は。周り比べて自分分って全然できてないな、ペース遅いなって思ったり。2年ぐらいまでもう全然で、3年になってやっとクラスに慣れて来たんですけど、「自分のペースで、ちょっとずつでも進んでいけたらいいのかな」ってことを感じられました。それは今も自分の中ですごく助けになっている考え方だなんて思います。

**井戸田**：課題研究発表会や演劇で、大勢の前で話す度胸とかその時に使ったパソコンのスキルとかは、やっぱり大学の授業とかでもすごく活かしてますね。うん、そうですね、度胸がついたなあって思います。発表する機会は普通の授業の中でもすごく多かったです。人前で話す力は相当表コミでついたと思います。

**丸山**：いま自分は年下の、小・中学生、幼稚園の子も相手にするアルバイトをやっています。基本的にはちっちゃい子はこっちの話が通じへんとか、まあ注意してもなかなか聞かへんしずっと走り回ってる、みたいな。そういう時ってどうしたらいいかなって思ってた時に、表コミの先生たちが、かつて自分の同級生とかに注意する仕方とかをなぜか思い出して、「あ、もしかしたらこれ、あの先生みたいに言ったら通じるんじゃないか」と思ってやってみたら、案外通じたりとか。それこそボランティアの方の動きを思い出して動いてみたら、いろんなことに気づきがあったりして。いま子どもたちのために働いて、自分の中に残ってる表コミの先生方の関わり方が、すごくありがたいなって実感できるところです。



表コミHP

